

■大来佐武郎 エコノミスト。〈敗戦〉後の経済復興政策の軸となる役割をして、国際的に著名となり、幅広く活躍した。

おおきたさぶろう

第一次大戦始1914＝ 満州の大連市薩摩町で、日露戦争後大陸に渡って邦字新聞記者をしていた大来修治の三男に生まれる。

原敬首相暗殺1921＝ 7歳：大連市大広場小学校に入学。

関東大震災・1923＝ 9歳：
ワンパク少年ながら首席で通し、
治安維持法・1925＝11歳：ボーイスカウトにも入団。

金融恐慌・1927＝13歳：卒業後、母に連れられ東京、東京府立一中(現日比谷高校)に入学。

満州事変・1931＝17歳：第一高等学校理科甲類に入学。

五一五事件・1932＝18歳：

帝人疑獄事件1934＝20歳：東京帝国大学工学部電気工学科に入学し、

日中戦争始・1937＝23歳：帝大新聞に「工科と就職」を投書後、卒業。通信省に入る。

第二次大戦始1939＝25歳：松前重義の技術者運動にも参加、
昭和研究会メンバーが運営する昭和塾に入る(第二期生)。北京にあった興亜院華北連絡部に赴任。
現地で橋樑や中江丑吉から影響を受けて、

日米開戦・1941＝27歳：帰任。
大東亜省総務局調査課に移る。

創価学会検挙1943＝29歳：長男が誕生。

年金+総武装1944＝30歳：召集されるも、ソ連国境へ出発寸前に呼び戻され、敗色濃厚となるなか、

敗戦・1945＝31歳：山形に石原莞爾を、秋田に石橋湛山を訪ねて戦後への意見を聞き、敗戦後、外務省調査局に移るや、有沢
広巳・中山伊知郎・東畑精一らを集めた戦後問題研究会を担当して、

新憲法公布・1946＝32歳：次男が誕生。*「日本経済再建の基本問題」を編集し高い評価を得る。吉田首相のブレインと呼ばれるも、

新憲法施行・1947＝33歳：吉田発言に抵抗する委員らに従うように決別し、外務省を辞職、経済安定本部調査課長となり、

極東裁判判決・1948＝34歳：三男が誕生。第2回「経済白書」から、

三大事件・1949＝35歳：「太平洋戦争による国富被害調査」を挟んで、

朝鮮戦争始・1950＝36歳：戦後初の海外長期出張。長女が誕生。

独立回復・1951＝37歳：第5回「経済白書」までまとめる。ラホールでの第七回エコカフェ総会出席後、

メデー事件・1952＝38歳：国連アジア極東経済委員会(ECAFE)経済分析課長となり、ニューヨークに赴任して経済開発問題に参画。

自衛隊発足・1954＝40歳：帰国して、経済審議庁調査部調査官から経済協力室長となり、

55年体制始・1955＝41歳：バンドンでの第一回アジア・アフリカ会議に出席、

国連加盟・1956＝42歳：経済企画庁計画部長を経て、

なべ底不況・1957＝43歳：経済企画庁総合計画局長となる。

インフレーション・1958＝44歳：世界経済視察旅行後、

美智子妃・1959＝45歳：下村治と成長率論争。

安保闘争・1960＝46歳：「所得倍增計画」立案にあたり、

全国総合計画1962＝48歳：経済企画庁総合開発局長を最後に、

TV宇宙中継始1963＝49歳：*退官。

東京オリンピック1964＝50歳：国連貿易開発会議(UNCTAD)に出席後、日本経済研究センター理事長。

大学紛争始・1965＝51歳：国連開発計画委員会(通称ティンバーゲン委員会)委員となる。日本経済研究センター主催で「低開発国の貿易と開発に関する会議」を開催。

震ヶ関ビル・1968＝54歳：第一回太平洋貿易会議(PAFTAD)開催。世界銀行国際開発委員会(通称ピアソン委員会)委員となり、

全共闘ビル・1969＝55歳：報告書執筆。ローマ・クラブ常任委員となる。

ドルショック・1971＝57歳：国際開発センター理事長。マグサイサイ賞受賞。

沖縄返還・1972＝58歳：30年ぶりに北京を訪問。「成長の限界」を監訳し出版。

石油ショック1973＝59歳：海外経済協力基金総裁に就任。日米欧委員会常任委員。三木特使としてアラブ歴訪。

クアラルンプール事件1975＝61歳：日印調査委員会日本委員長。NHK経営委員会委員。

田中角栄逮捕1976＝62歳：日豪調査委員会日本委員長。

JALハイジャック・1977＝63歳：参議院に立候補するも落選したが、

革新大敗北・1979＝65歳：北京訪問後、*第2次大平内閣の外相となり、首相に随行して中国公式訪問。

貿易摩擦問題1980＝66歳：首相に随行してオーストラリア公式訪問。首相代理としてベネチア・サミットに出席。対外経済関係政府代表に任命されて、経済外交に活躍。地球規模の環境問題に関する懇談会座長。外相離任後も、

1981＝67歳：内外政策研究会(大来事務所)を開き、

中曽根内閣・1982＝68歳：海外経済協力基金総裁を辞任すると、新設の国際大学学長、太平洋経済協力会議(PECC)日本委員会委員長、

1984＝70歳：世界野生生物基金日本委員会会長、

リクルート事件・1988＝69歳：日米諮問委員会委員、日本計画行政学会会長など、

国際関係に関わる要職を次々務め、

バブル始・1986＝72歳：勲一等旭日大綬章。

竹下内閣・1987＝73歳：国際大学学長を辞任。日本ユニセフ協会会長。

リクルート事件・1988＝74歳：対外経済協力審議会会長。

昭和天皇没・1989＝75歳：第一回アジア太平洋経済協力会議(APEC)出席。

バブル崩壊・1992＝78歳：なお、APEC賢人会議メンバーになるなどしたが、インディラ・ガンジー平和軍縮開発賞を受賞後、

55年体制終・1993＝79歳：*賢人会議で電話会談中、急性心不全で倒れ、没した。
正三位に叙される。生涯81もの国を訪れ、知己も多く、プリンストン大学など海外の大学から7つの名誉博士号を受け、勲章などの受章も多い。

小野善邦「わが志は千里に在り」、